

図書館通信 -14/15-

1972. 4

Quiz Yourself

Pt. A. 次の設問の回答を求めるには、どんな参考図書を用いればよいか。次ページのPt.B.に掲げる参考図書リストの中から適当と思うものを選び、 欄にその記号を入れてごらんください。

- ___ 1. スピーナムランド法に関する資料。
- ___ 2. 鉄鋼労連の1969年度労働者意識調査報告についての本は出ているか。
- ___ 3. ハーバード大学の住所。
- ___ 4. 清教主義に関する本。
- ___ 5. 風南氏という号をもつ人は誰か。
- ___ 6. 日本がIMF8条国に移行した日はいつか。
- ___ 7. "秋きぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる。"の出典と作者。
- ___ 8. Information の同義語をできるだけ多く拾い出すには。
- ___ 9. 明治以降の日本の教科書を所蔵している所。
- ___ 10. Eric John Hobsbawm の雑誌論文には何があるか。
- ___ 11. 選挙区別の有権者数。
- ___ 12. "原子炉に関する流体力学上の諸問題について。"という論文の執筆者と掲載誌名。
- ___ 13. 「雲陽誌」という出雲の地誌の内容のあらましについて。
- ___ 14. テフロンタフタとは。
- ___ 15. 昭和31年当時の日本では600円で何が買えたか。
- ___ 16. 出入国管理令施行規則の全文。
- ___ 17. "閉じた道徳。"とは誰がいったことばであるか。その意味内容について。
- ___ 18. 国木田独歩の「今の武蔵野」はあるか。
- ___ 19. 自作農創設維持政策について知りたい。
- ___ 20. 嵯峨の屋御室の「野末の菊」はあるか。

も く じ

参考書クイズ……………(1)
 フレッシュマンのための
 ライブラリーガイド……………(2)
 一般教育科目用
 図書案内……………(6)
 学生購入希望図書……………(7)
 私のすすめたい本……………(8)
 『71』通信 反省と提案……………(9)
 ○編集委員の任を終えて
 ○アンケート報告
 静岡大学雑誌目録……………(10)
 浜松分館だより……………(11)
 分館・学外関係機関案内……………(12)
 おしらせ……………(12)

— 人は一冊の本を
 作るために
 図書館半分を
 ひっくりかえす —
 サミュエル・ジョンソン

Pt. B. 参考図書リスト

- A.社会科学大事典 B.世界大百科事典
 C.World of learning D.Roget's
 thesaurus E.文芸年鑑
 F.日本文学大辞典 G.社会学辞典
 H.世界歴史事典 I.索引政治経済大年表
 J.Webster's dictionary of synonyms
 K.大人名事典 L.近代日本総合年表
 M.朝日年鑑 N.現行日本法規
 O. Index of economic journal
 P.日本の参考図書 Q.物価総覧
 R.日本文庫めぐり S.国歌大観 T.日本
 随筆索引 U.国立国会図書館雑誌記事索引
 V.西洋史辞典 W.日本雑誌総覧
 X.日本歴史大辞典

上の20問のクイズは、あなた自身の基本的参考図書の知識に関するものです。答は12ページにあります。採点してみてください。結果はいかが？

あなたが思考し、行動する時、まず概念の把握をすることでしょう。あなたが学問をする時にも、まず自分の調査研究しようとするテーマが現在ど

の程度まで進んでいるのか、という概念の把握、つまりそのテーマに関する研究の水準を知らせてくれるような手だてが必要となります。図書資料はもとより、事柄、人物、場所、言葉、数値的データ等々、あなたがこれからの大学生活において必要とする文献や情報をさがすためには、その案内役となる参考書の知識と利用方法に習熟すべきではありませんか。適切な参考図書を正しく有効に使う方法を知らないばかりに、大きな情報源を見落したり、探すのに無駄な時間を費す恐れがあります。

あなたがこの参考図書利用知識の一端を得るためにも、是非このライブラリーのオリエンテーションに参加されることがのぞまれます。オリエンテーションの実施期間と時間については12ページにのっています。もしこの期間を逃がしても、レファレンス担当員がいつでもあなたの求めに応じて、ライブラリーの活用法をお教えします。3階④のデスクにたずねてください。その前にまず次のライブラリーガイドを読んでおくことをおすすめします。

フレッシュマンのための

ライブラリーガイド

大学では、高校時代とちがって、実験や試験期を除けば、教室で費やす時間は相対的に少なくなり、1時間の授業のために、2,3時間の教室外学習をすることになります。即ち自主的学習によって、豊かな創造性を開発してゆく努力が要求されるのです。それには学問をするための前提となる自律的学習の技術や方法を身につけることが必要です。図書館とのかかわりも正にここにおいて図書館で学習したり、本を借りたり、課題の読書をしたりするだけでは図書館の利用とはいえません。本当の利用とは、参考図書やアブストラクトや索引等を駆使しながら、膨大な資料の中から、特定のものを適確に取り出してゆく能力を身につけることです。これこそ大学教育で得られる最も貴重なものの一つでありましょう。大学図書館は、この諸君の学習・研究活動を側面からアシストするために存在し、必要とする文献へのアプローチを援助する機能を負担しているわけですから、図書館を大学生活の中での書齋として、或いは、自家菜籠中のものとして十分活用して下さい。

ではどのような時に、ライブラリーは役に立つか、そのサービス内容ならびに利用テクニックを紹介しましょう。諸君の積極的利用を期待します。

(「学生案内1972」も併読して下さい)

内 容

A ライブラリーの概要

- 1) 所蔵文献量と閲覧室収容能力
- 2) 案内図
- 3) サービス窓口案内
- 4) サービス時間

B サービス内容

- 1) 学習・研究スペースの提供
- 2) 文献検索テクニックの指導、紹介
- 3) 文献へのアプローチの援助

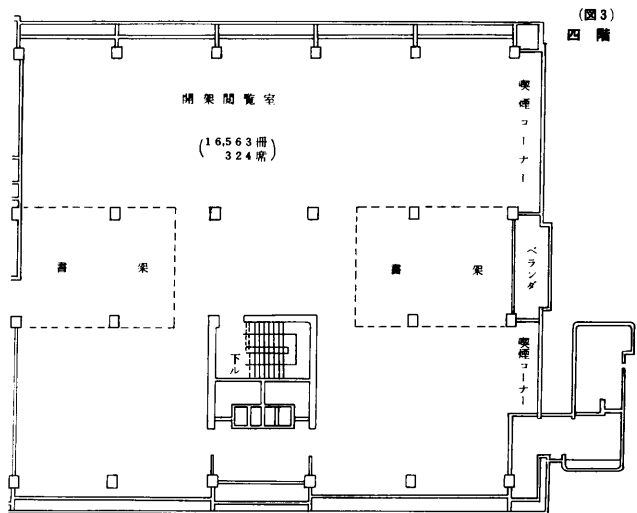
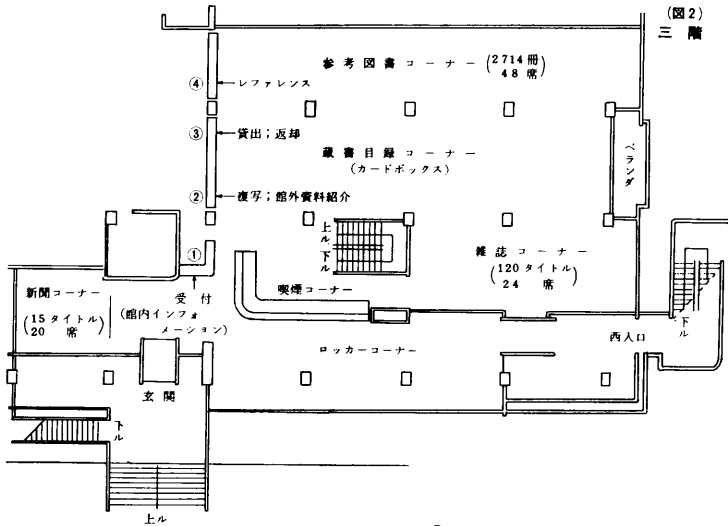
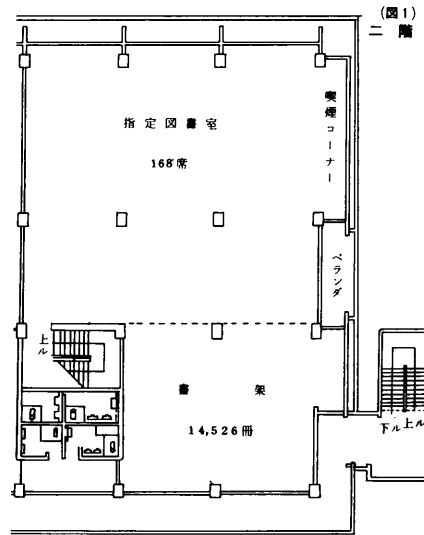
2. 案内図

A. ライブラリーの概要

1. 所蔵文献量と閲覧室収容能力

(表1)

閲覧室名	所蔵図書	所蔵新聞雑誌 (重複も含む)	閲覧用 座席	備考
2階 指定図書室	冊 14,526	_____	168	(図1)
3階 参考図書室	2,714	_____	48	(図2)
階 雑誌閲覧室	_____	120 タイトル	24	(図2)
	_____	15	20	入室はフリー
4階 開架閲覧室	16,563	_____	324	(図3)
書庫	約 170,000	雑誌 約5,000 新聞 約50	_____	入室不可
	(貸出中のもの) 約 (30,000)	雑誌 約(1,000)	_____	
計	約冊 210,000	_____ タイトル 約5,000	_____ 席 574	



3. サービス窓口案内 (3階)

①番：受付

- a. 入館・退館・一時退館(授業・食事等)の手続
- b. 館外貸出証の申込受付と発行
- c. その他インフォメーション

②番：複写・学外資料の利用申込

- a. 学内文献の複写……実費負担
- b. 学外文献の複写……実費負担
- c. 学外諸機関への紹介状の発行
- d. 学外文献の貸出斡旋(相互貸借)申込

③番：貸出・閲覧・返却

- a. 所蔵文献の貸出
- b. 書庫内文献の館内での閲覧
- c. 貸出文献または閲覧文献(書庫所蔵分)の返却(12時-13時には①番受付へ返却)

④番：レファレンス

ある問題について調査したい時

- a. どのような文献で調べたらよいか
- b. 利用したい文献は当館で所蔵しているか
当館で所蔵していない時は、どこで所蔵しているか
- c. その問題を専門に扱っている機関はどこか

等について回答します。

その他①、②、③番の窓口で受け付けられないことについて相談に応じます。

4. サービス時間——開館時間・窓口受付時間——



a. 試験期(9月, 1-2月)

月-金	9:30	11:30	13:00	16:30	19:30
土				16:00	(延長開館)

(延長開館)

b. 試験期以外

月-金	9:30	11:30	13:00	16:30	17:00
土			12:00		

- 注)  ①番受付②番複写・学外資料利用申込
③番貸出・閲覧・返却④番レファレンスの業務を行なっている時間帯です。
 ①番受付③番返却の業務のみ行なっている時間帯です。

c. 休館日

日曜日・祭日・本学創立記念日(6月1日)
その他図書館業務上必要な時(「図書館通信」掲示等でお知らせします。)

B. サービス内容

1. 学習・研究スペースの提供

(表1及びA-4を参照して下さい。)

2. 文献検索テクニックの指導・紹介

この「ライブラリー・ガイド」や「学生案内1972」をハンドブックとして利用して下さい。なお、4月17日-22日には新入生対象にオリエンテーションを行います。詳細は号末の「お知らせ」の欄を見て下さい。また困った時にはいつでも④番レファレンスに申出て下さい。紹介いたします。

3. 文献へのアプローチの援助

諸君が直接閲覧室に行き、自由に書架にある文献に当るのも一つの方法ですが、求める文献は貸出されていたりしますから、たまたま書架に残っている文献にしかアプローチできないわけです。書庫には約17万冊の文献がありますし、閲覧室の文献も各分野に分類されているのですが、諸君の考える分野と合致しない場合もありますので、3階にあるカード形式の蔵書目録、ならびに④番レファレンスを積極的に利用されるよう望みます。

a. 必要文献名がわかっている場合

(i) 雑誌・新聞収録記事・論文

必要論文が収録されている雑誌名・新聞名がわかっている時には、直接③番閲覧・貸出に申出て下さい。本館で所蔵していない場合には、図5の(X)以降の流れに従って下さい。

(ii) (i)以外の図書

図5を見て下さい。わからなければ④番レファレンスに問い合わせして下さい。

b. 必要文献名がわからない場合

とにかく、④番レファレンスに声をかけて下さい。できるだけ援助をいたします。殊に特定文献の所在は90%以上がわかります。図5に従いますと、(Y)以降がこの段階に入ります。分類目録から文献検索することができますが、分類目録利用はかなり困難ですので④番レファレンスに質問した方が検索効果を上げることができます。

図5の径路図に沿った文献検索法に慣れて下さい。ただし、特に経費または時間を要し、他の人へのサービスに支障を及ぼす調査・文献目録等の作成依頼には応じられない場合もあります。最後に「学生案内1972」にのっていないゼロックス複写は②番複写窓口に所定用紙に記入の上申出て下さい。紙の大きさはB4判の一種類で、1枚30円です。

(電子リコピー価格の2倍になります。)

(図5) 文献へのアプローチの一例 (雑誌や新聞の収録記事・論文は除く)



一般教育科目用図書案内 — 指定図書を中心に —

今年度の授業開講時にあたり、図書館では新入生諸君のために、特に一般教育科目をとりあげて各科担当教官に入門図書を推薦していただいた。下記リストの図書の大部分は、図書館2階の指定図書室に分類順に配架され自由に手にとることができます。指定図書とは、教官が教室内の講義と

教室外の自学自習をより効果的にするため、授業にそって諸君に必読・副読を課す予定のものであります。従って試験の際にはその内容等も出題の対象となりますから、新入生諸君は前もってこの指定図書を読んで学習効果を高めることをおすすめします。

科目	書名	著者	出版社	請求記号
哲 学	デカルト第1-2(思想学説全書)	所 雄 章	勳 草 書 房	⊕
	現代英米の倫理学	岩 崎 武 雄	〃	150.23-I 96
	マルクス主義の成立過程	広 松 涉	至 誠 堂	363.3-H 71
	西洋哲学史	Russell.B	み ず ず 書 房	130.2-R 89
	世界の大思想 I(1)プラトン	Platon	河 出 書 房	080-Se 224
日 本 史	講座日本史 第1-10	歴史学研究会日本史研究会	東 大 出 版 会	210.08-Ko 98◎
	明治国家(体系日本歴史)	田 中 彰	日 本 評 論 社	210.6-Ta 84
東 洋 史	中国の農民社会	今 泉 清 二	弘 文 堂	612.22-I 45
	現代中国史	栄 孟 源	大 月 書 店	222.07-E 37
	現代中国入門	新 島・野 村	勳 草 書 房	302.22-N 72
西 洋 史	歴史学序説	上 原 専 禄	大 明 堂	201-U 36
	西洋史概説	尾 鍋 輝 彦	学 生 社	230.1-O 65
	史学概論	太 田 秀 通	〃	201-O 81
国 文 学	日本文学の歴史1-12		角 川 書 店	910.2-N 77
外国文学	文学序説	土 居 光 知	岩 波 書 店	901-D 83
	ドイツ文学(世界の文学史)	佐 藤 晃 一	明 治 書 院	940.2-Sa 85
	フランスの文学(〃)	鈴 木 力 衛	〃	950.2-Su 96
	世界文学体系18シラー	Schiller	筑 摩 書 房	908-Se 22
	〃 19ゲーテ	Goethe	〃	〃
	〃 53リルケ	Rilke	〃	〃
	〃 54トーマスマン	Mann	〃	〃
	〃 55ヘッセ・カロッサ	Hesse・Carossa	〃	〃
	〃 58カフカ	Kafka	〃	〃
	シェイクスピアの面白さ(新潮選書)	中 野 好 夫	新 潮 社	932-Sh 12N
小説の変貌(現代文芸評論叢書)	Alberes・R	紀伊国屋書店	901.3-A 41	
新潮世界文学1-2シェイクスピア	Shakespeare	新 潮 社	908-Sh61	
漢 文 学	老子の哲学	大 浜 皓	勳 草 書 房	126.2-O 27
	新釈漢文体系1 論語	吉 田 賢 抗	明 治 書 院	082-Sh 69
	和漢名詩類選評釈	簡 野 道 明	〃	921-Ka 57
法 学	法社会学と法解釈学	渡 辺 洋 三	岩 波 書 店	321.4-W 46◎
	岩波講座現代法1-15		〃	320.8-I 95
	憲法1(法律学全書3)	清 宮 四 郎	有 斐 閣	323.4-Ki 87
	〃 2(〃 4)	宮 沢 俊 義	〃	〃
	憲法判例の体系	長谷川 正 安	勳 草 書 房	323.4-H 36
憲法学の方法	〃	日 本 評 論 社	⊕	
政 治 学	現代政治の思想と行動	丸 山 真 男	未 来 社	311-Ma 59
	政治学(勳草全書)	矢 部 貞 治	勳 草 書 房	311-Y 11
	政治学	横 越 英 一	日 本 評 論 社	311-Y 74
	戦後日本政治史1-4	信 夫 清三郎	勳 草 書 房	312.1-Sh 65
	大正デモクラシー史	〃	日 本 評 論 社	312.1-Sh 65
経 済 学	現代経済学入門	大 石 泰 彦	有 斐 閣	331-O 33
	マルクス経済学(有斐閣双書)	杉 原・佐 藤	〃	331.34-Su 34
	諸国民の富1-2	Smith.A	岩 波 書 店	331.321-Sm 5

科目	書 必	著 者	出 版 社	請求記号
社 会 学	現代批判の社会学	杉之原 寿 一	汐 文 社	361-Su 42
	現代日本の社会学	松 原 治郎等	時 潮 社	361-G 34
	日本社会要論	松 島・中 野	東 大 出 版 会	362.1-Ma 87
	社会学入門	本 田 喜代治	培 風 館	361-H 84
	社会学的分析	森 博	恆星社厚生閣	361-Mo 45
地 理 学	あすのための警告	福 島 要 一	新 潮 社	615.7-F 84
	苦海浄土	石牟礼 道子	講 談 社	915.9-I 78
	生と死の妙薬	Carson, R.	新 潮 社	615.7-C 22
	地理学方法論	飯 塚 浩 二	古 今 書 院	290.4-I 28
数 学	行動科学者のための基礎数学	矢 野・茂 木	裳 華 房	⊕
	解析学序説上・下	一 松 信	〃	413.1-H 77
	数理統計学 1-2	ウィルクス	東 京 図 書	⊕ 第1だけ入荷
	ガロアの生涯	インフェルト	日 本 評 論 社	289.3-G 17I⊙
化 学	バーロー物理化学上・下	Barrow	東京化学同人	431-B 24
	現代物理化学講座 1.化学入門	仁 田 勇	〃	431.08-G 34
	化学史	都 築 洋太郎	朝 倉 書 店	430.2-Ts 99
	基本有機化学	Richard, C	広 川 書 店	⊕
	無機化学	Bell, L.	東京化学同人	435-B 33
生 物 学	現代生物入門 1-9		岩 波 書 店	第1.3-9巻あり
	サルの話(岩波新書)	宮 地 伝三郎	岩 波 書 店	489.9-Mi 75⊕
	生物学序説	藤 井 隆	〃	⊕
	生命の糸(みすず科学ライブラリー)	ケンドルー	み ず ず 書 房	464-Ke 42⊙
	生と死の妙薬	カーソン, R.	新 潮 社	615.7-C 22
地 学	現代地球科学	竹 内・島 津	筑 摩 書 房	450-Te 67⊕
	宇宙科学と地球科学	都 城・上 田	明 治 図 書	408-Me 25-4
	宇宙の科学	小 尾 信 弥	日 本 放 送 出 版 協 会	440.4-O 14⊙
	地球の科学	竹 内・上 田	〃	450-Ta 67
	統地球の科学	〃	〃	450.12-Ta 67⊙
物 理 学	朝倉物理学講座 9 熱学 1	確 井 恒 丸	朝 倉 書 店	420.8-A 85-9
	大学演習力学	山 内・末 岡	裳 華 房	423-Y 39
	フاینマン物理学 1 力学	Feynman, R.	岩 波 書 店	420.1-F 23-1
	〃 2 光・熱・波動	〃	〃	420.1-F 23-2
	初等力学	森 口 繁 一	培 風 館	423-Mo 48

⊙4階開架閲覧室にアリ ⊕書庫にアリ ⊕今年度購入予定 この記号の無いものは全て指定図書室にアリ

学生購入希望図書

★下記のリストは、昨年11月から今年2月にかけて学生から購入希望のあった図書のうち、購入が決定したものです。これについては、3階カウンター前の投書箱付近に常時掲示されますので、御注意下さい。又、購入希望図書の用紙は、各階の投書箱横に備えつけてあります。予算・収書基準の許す範囲で皆さんの希望に沿うように致しておりますから大いに利用して下さい。

アポリネール 全集 紀伊国屋
 加藤周一 芸術論集 岩 波
 コスミンスキー イギリス封建地代の展開 未 来 社
 シ ッ フ 量子学 上(新版) 吉岡書店

E、スノウ アジアの戦争(現代史
 体系3) み ず ず
 田口富久治 マルクス主義政治理論の
 基本問題 青 木 書 店
 日本政治学会 現代日本における政治
 態度の形成と構造 岩 波
 富士正晴 伊東静雄研究 思 潮 社
 松野祐善 親鸞と末法思想 法 蔵 館
 山辺 茂 入門生体力学 南 江 堂
 W. Gelhern Individual freedom and Green-wood
 governmental restraints. Press
 P. A. Schipp Albert Einstein Philo- Open Court
 sopher Scientist.

私のすすめたい本

歴史学への招待

—— 日本史学を中心に ——

原 秀三郎

大学における歴史教育の課題が、歴史叙述の単なる享受者としての能力を授けることでもなければ、また特殊歴史教育・研究者の育成にのみあるのでもないとするれば、それは、一般的には、学生諸君の主体的な歴史的思惟能力の涵養に資することにあるといわねばならない。この前提にたつて、学生諸君、とりわけ新入生諸君に希望することは、何よりもまず、諸君が抱いているであろう歴史ないし歴史学に対する幻想や誤解を、科学的歴史学に接することによって、自ら破壊してほしいということである。諸君が中・高校を通じて植えつけられた歴史および歴史学に対する印象は、大別して、二通りあるのではなかろうか。一つは教科書に象徴される無味乾燥さに対する反動としての文学的・ロマン的な歴史へのあこがれであり、もう一つは同じことの別な表現としての歴史嫌いであろう。勿論、すぐれた歴史教育によって、科学的歴史認識・思考様式を体得することができた幸運な諸君でないわけではない。しかし、そうした場合は、まだ残念ながら、少ない。歴史好きも、歴史嫌いも、教科書の歴史像に対する当然の反発ないし批判として生まれたものである。大学における歴史教育は、教科書の歴史に対する否定的否定として、すなわち科学的歴史認識ないし歴史的思惟能力の自己教育として位置づけられなければならないまい。こうした観点から「私のすすめる本」を選ぶとすれば、さしづめ次のようになる。

まず理論的著作としては、この分野の最新の注目すべきものとして、芝原拓自『所有と生産様式の歴史理論』（青木書店）がある。本書は、歴史科学の基礎的諸概念、経済的社会構成の諸段階とその移行過程、および世界史的普遍性を前提とした日本の特殊性等々の解明を試み、その成果を簡潔に叙述している。史的唯物論と経済学と歴史学とで重なりあい、きびすを接する領域を抱括的に論じた斬新な労作である。熟読を期待したい。本書と関連して、※安良城盛昭『歴史学における理論と実証・第1部』（御茶の水書房）の併読もすすめたい。

また、歴史哲学的著作としては、羽仁五郎※『転形期の歴史学』・『歴史学批判叙説』（ともに『羽

仁五郎歴史論著作集』第一巻〈青木書店〉所収）、※服部之総『歴史論』（『服部之総著作集』第三巻〈理論社〉）がある。いずれも、わが国における科学的歴史学の基礎をすえた古典的労作であり、今日なおその価値は失われていない。

次に、具体的な歴史分析、とりわけ日本の社会構成の特質に関する実証的研究としては、まず、日本近代社会の構造分析である、※山田盛太郎『日本資本主義分析』（岩波書店）、※平野義太郎『日本資本主義社会の機構』（岩波書店）があげられる。これらは戦前の著作であるが、いわゆる「講座派」の基本文献として、古典的価値を失っていない。必読の書というべきである。日本の歴史学の最先進領域は明治維新史研究であるが、この分野の基本文献として、※遠山茂樹『明治維新』（岩波全書）、※井上清『日本現代史Ⅰ・明治維新』（東大出版会）をあげておく。

日本封建社会の史的分析としては、藤田五郎『近世封建社会の構造』（※『藤田五郎著作集』第三巻〈御茶の水書房〉）、※安良城盛昭『幕藩体制社会の成立と構造』（御茶の水書房）、※永原慶二『日本封建社会論』（東大出版会）などがあり、いずれも必読の価値をもっている。

日本原始・古代史に関しては、※渡部義通『古代社会の構造』（三一書房）、※藤間生大『日本民族の形成』（岩波書店）、石母田正『日本の古代国家』（岩波書店）がある。渡部氏の著作は、わが国の科学的古代史研究の基礎をすえたものであり、石母田氏のそれは、最新の成果を盛りこんだ学問的総合への意欲的なとりくみである。

これらの著作は、たとえていえば、万年雪をいただく巨峰である。それぞれの山頂への道程は決して平坦ではない。その険阻な道をいとわないもののみ、科学的な歴史的思考能力の会得が許されるであろう。その場合、遮二無二征服を試みるのも一つの方法であるが、ガイド・ブックでおよその見当をつけておくのもまた方便である。そうしたものとして、※歴史科学協議会編『歴史の名著〈日本人篇〉』（校倉書房）を推す。

巨峰への登はんもさることながら、手近な山々への散策もまた捨てがたい味わいがある。※服部之総『黒船前後』（筑摩書房）、同『日本人の歴史』（法政大学出版局）などはそうしたものの一つである。この当代一流の歴史随筆家でもある服部氏の珠玉の名品は、ハードな読書につかれた諸君にとって、砂漠のオアシスともなるであろう。（※印は当館所蔵）（人文学部 助教授 日本史）

’71 “ 図書館通信 ” 反省と提案

編集委員の任を終えて

高木 俊 輔

「図書館通信」は、昭和45年1月に第1号が発刊されて以来、順調に定期的な刊行を続けてきた。今回は時期的な理由で、新入生に対する図書館案内を中心にして合併号という形で出すことになった。第15号を数えるに至った「図書館通信」も、図書館にかかわる問題の所在を明らかにし、本学図書館利用の円滑化をはかる、等々の課題に対して取り組むことによって、一定の役割を果たしつつあるように思われる。

本年度は、主として図書館改革の問題をとりあげることによって、本学図書館の向かうべき方向を明らかにすると共に、この「図書館通信」に一つの特色を出そうとする意図があった。この点、果たしてどれだけ紙面に表現できたであろうか。「通信」編集の一端に連なった者として、ここに若干の感想と今後の「通信」のあり方に関する希望を述べて、次年度の委員の方に引き次ぐことにしたい。

この一年で集中して出してきた問題は、多分に本学の図書館が今まで抱えてきた問題点をまとめて公けにしたという色彩が強い。

- (1) 図書館維持費問題…その大部分を教官当りと学生当りの積算校費に依存せねばならないことから生ずる問題。
- (2) 図書館員の不足問題…定員が低く抑えられていることから、予算の伸び以上の比率が定員外職員の手当にあてられ、実質的な図書館活動が低下せざるを得ないという問題。
- (3) これらが中央図書館制の発展のための前提となる図書館員と研究者側との相互理解に障害条件となっていること。これは館員からいえば図書館は孤児扱いされているとの感を深め、他方教官側からは図書整理の遅滞と図書カードの統一化の遅延への不満を蓄積させた等々。
- (4) 大岩時代より改善されたが、学生・教官ともに図書館利用状況の問題…とくに教官特別閲覧室の利用は皆無に近い現状である。この空間利用について公けに検討が加えられる必要があろう。

以上に列挙してみた他にも、まだ問題はあろうが、これだけについてみても図書館の現状の

暗さ¹が浮き出てくる。この点については毎号のようにくり返し指摘される場所であるが、問題の根を人員や予算問題とする余り、問題を単純化してしまう傾向は避けねばならないであろう。図書館定員の確保、予算の増額が実現化したとしても残されている問題、つまり中央図書館のあり方に関する検討を怠ってはならないように思われる。

さいごに「図書館通信」の問題であるが、まず本学の「通信」の特色である「私のすすめたい本」欄は、なお充実をはかり度いものである。人文・社会・自然と特集などを組んで系統だった内容を考える時期に来ているように思われる。「図書館通信」は、配布状況からいえば、教官層には全員に、学生には図書館入口で任意に受取るという形をとっており、教官層を主な対象としているようにみえるが、本号のように学生に対する利用案内的内容は結構なことである。現在の規模では余り大きな企画は実現できそうにないが、新着図書速報などを兼ねることによって、さらに広い利用を期待することができよう。それから真正面から図書館の問題に挑んだものが多いが、さらに現状を具体的データによって示すこと、館員側からのより具体的な問題点の開陳がくり返して行なわれる必要があり、そのために「図書館通信」の紙面ににぎわうことは、プラスの意味をもつものと思われる。なお付言すれば、この「通信」のレイアウトも、もう少しなじみの出るものにするため一考ありたいものである。

アンケート報告

去る2月末に「図書館通信」がどう読まれているかを知るために、学生を対象にアンケートを実施しました。その結果を紹介します。

設問の方法に不備な点があり、全体としても十分なアンケートではありませんでしたが94人(うち2年生41人)の協力が得られました。以下質問と集計結果(件数)の概略です。

- 1- 「図書館通信」を読んでいますかー
時々読む(61) 全然読まない(30) 毎号読む(3)
- 2- 「図書館通信」を読んでみてどう感じましたかー

つまらない(37) おもしろい(13) その他(10)

3. 「図書館通信」は図書館を利用する上で有用ですか— ある程度役に立つ(40) 役に立たない(18) 役に立つ(5)

4. 「図書館通信」の記事のうち印象に残ったもの(おもしろい、役に立つなど)は— 私のすすめたい本(30) 教官・学生の投稿(21) お知らせ(延長開館・長期貸出など)(20) 図書館利用方法の案内(11) 蔵書目録等の紹介(8) 本学図書館の現状とその改善意見(7)

5. 「図書館通信」にどのような企画を望みますか—

新着図書を案内する(30) コラム(学生の声など)をつくる(18) 学術的専門図書を紹介する(17) 図書・雑誌・資料の検索方法を紹介する(16) 図書館で購入している雑誌を案内する(15) レファレンスコーナーをつくる(7)

6. 発行回数はどのくらいが良いでしょうか— 月刊(54) 半月刊(10) 隔月刊(4)

ほかに「図書館通信」の体裁や配布方法に関しても意見を求めましたがあまり積極的な反応は得られませんでした。

アンケートの結果を考えてみますと今までのところ少数の学生にしか「読まれていない」という現実がハッキリ現われはしましたが何らかの役割も果している事も事実のようです。「図書館通信」は現在、隔月で発行されていますが、毎月発行という刊行頻度に圧倒的な数を得たことは利用者が今後に期待するものが大きい事を示していると思われまます。

一方、学生に人気のあった記事はいずれも学生に直接に結びつきのあるものばかりであり、新着図書を案内したり、学生の声を反映させるコラムをつくるなどの点に要望の多かった事を考え合せると、今後の「図書館通信」はどうあるべきか—その答が明らかであると思われまます。ただ、それにはこれまでの編集方針の中での、教官層に図書館の現状を再認識していただき図書館改善・改革その他様々な面での協力を仰ごうという意図が、教官層にあっても読まれていないということ、又、その編集方針の打ち出し方が甘かったためか、コミュニケーション不足に終わってしまったという二つの点から、達成されなかったことをも踏まえた上での展望が望まれるように思われまます。利用者を読まれ、役立ち、積極的に求められる「図書館通信」を今後とも考えていきたいと思われまます。

静岡大学雑誌目録 1972年版

—— その完成と雑誌係の未来へ向けて ——

13年ぶりに、静大所蔵雑誌目録が作られることになりました。1年がかりで準備してきた「静岡大学雑誌目録 和文編」がまもなく完成し、学生、教職員に利用していただくことになるでしょう。引き続き、欧文編も47年度に作成刊行の予定になっています。

雑誌目録は、1958年に作られて以来、改訂されず、そのままになっていましたが、その間、所蔵雑誌のタイトル数は増える一方で、雑誌の資料的価値が高まるとともに、その利用度も多くなってきました。しかし、図書館では、雑誌整理の基本的業務が、人手不足等のために一貫性に欠け、検索手段が複雑なことから、利用者が要求する雑誌の所蔵や所在個所を確認するのに手間どり十分なサービスができない状態でした。従って、カウンターで長く待ってもらったあげくに、当館には現在ありませんと答えなければならなかったり、検索不届ではなかったのかという不安が残ったりし

て、雑誌部門の立ち遅れは図書館サービスの中で大きな障害となっていました。

目録ができるにあたっては、こうした内部からの反省と、全国的な雑誌目録整備の気運に触発された面が多いのですが、すでに、昭和44年の文部省の大学図書館実地視察員講評でも、静大所蔵雑誌目録の必要性が指摘されていました。(図書館通信 №.1, P.2) 近年、科学技術分野における定期刊行物のタイトル数は、等比級数的増加を示していると云われますが、このような情報源資料の増大は、図書館に資料費の効果的使い方や相互協力をせざるをえない状況にしています。そのためには、各図書館は自館の目録をもとに、その他の総合逐刊物目録や、索引誌、抄録誌等を併用して、自館にない資料を入手しなければなりません。このように、雑誌目録整備に限らず、目録類の整備は、図書館にとって必要欠くべからざるものになってきています。今回の雑誌目録作成計画は、作

業量と予算上の問題もあって、必ずしも順調に進行したわけではありませんが、このような状況から余儀なくされたと云った方がよいでしょう。しかし、スタートしてみると、準備期間中にも役立つことが多く、学内から必要性についての要望が今まであまり聞かれなかったのが不思議に思えます。

ともあれ、人手不足と蓄積記録類の追跡に悪戦苦闘した作業も終点に近づいた今、その過程でチェックされた、いくつかの問題点をあげ、今後検討してゆきたいと思います。第1は、紀要・報告類の交換窓口が各学部になっているため、図書館としての収集にバラツキができています。従って、今回も、学部資料室ならびに研究室所蔵になっている寄贈、交換雑誌と図書館に所蔵されているこれらの雑誌を、総体として把握することができなかったこと。第2は、図書館外に所蔵されている購入雑誌の総点検をどうするか。第3は、欠号とその補てん法。第4は、こうした目録の整備を基礎に、資料の整備、収集、利用の仕方をどのように確立するかということ。第5は、次期目録の収録範囲をどこまでにするかということ。これは排架の問題とつながってきますが、今、考えられるのは、農学部統合に伴う増築の際に、年鑑、統計等、逐次刊行物として整理した方がよいと思われるものを全て雑誌書庫に排架する案です。第6は、その場合の排架方式は、現在のような誌名のABC順ではなく、部門別に分けて、固定排架に近いものにせざるをえなくなるのではないかということ。第7は、学部資料室、研究室所蔵の雑誌と図書館所蔵を、何年以後、何年以前というように利用頻度によって(人文・社会と自然とによって画一的にはならないかもしれませんが)分担できないものか。第8は、散逸を防ぐための製本の必要性等の諸点でした。

目録作成過程を通して痛感したことは、これを機会に、雑誌部門の整備、運用の改善をはからねば、利用者の要求に対処できなくなるのではないかということです。また、目録の生命は常に整備されて動いていることにありますが、それは、人によってはじめて生かされるものです。雑誌部門の強化に限らず、図書館における全サービス部門の強化はまず人にありということ、この点についての理解が、今後何よりも管理層に望まれるわけです。

下記にあげる資料は逐刊物の効果的な利用に役立つツールの代表的なものです。

◆全国総合目録

- 文部省大学学術局編、学術雑誌総合目録、自然科学和文編(1968)自然科学欧文編(1966)人文科学和文編(1957-改訂版が1969年には刊行の予定でしたが、まだ発行されていません)人文科学欧文編(1966)これは、主要国公私立大学、国会図書館をはじめ官公庁所轄の研究機関および民間の研究機関等が所蔵する関係資料を所蔵したもの。

◆雑誌記事索引

- 国会図書館編、雑誌記事索引、人文・社会編、科学技術編(月刊)
- 法務図書館編、法律関係雑誌記事索引(隔年刊)
- 最高裁判所編、邦文法律雑誌記事年報
- 経済資料協議会編、経済学文献季報
- 国立教育研究所編、教育索引月刊
- 東京大学国語国文学会編、国語国文研究文献目録(年刊)

◆抄 録

- 日本科学技術情報センター編、科学技術文献速報(9分冊旬刊~月刊)
これは、世界各国の主要な科学技術文献(特許は除く)をほとんど網羅した日本語の抄録誌です。
- 医学中央雑誌社、医学中央雑誌(年10巻)

◆独立誌ではないが、各分野の雑誌には、その分野の文献を掲載しているものが多くあります。

■浜松分館だより

对学生サービスを考える

昭和46年度の学生用図書費は、本省からの学生用図書購入費13.7万円で約100冊の図書を購入し、指定図書費としては11.8万円で117冊の図書を購入した。また、浜松分館既定経費の内から7.5万円、約60冊の図書を購入しそれぞれ分館において閲覧に供している。この他に、日本雑誌62種、外国雑誌12種、約70万円を予約し、上記同様に閲覧に供している。これらの金額は数年前にくらべると大巾に増してはいるが、冊数種類はそれほど殖えておらず、まだまだ不十分である。

図書館の整備についても、数年前より図書館の一角にストープを入れ、新聞閲覧コーナーにはソファを設置し、スタンド式灰皿を置き、投書箱を取りつけるなど、出来るだけ学生の要望に答え

